



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

トムソン・ロイターのフィナンシャル・リスク部門の名称はRefinitiv(リフィニティブ)に変わりました

知りたい
投信 なるほど
リッパー

2020年の資金動向

日本株投信は利益確定で流出超

2020年の1年間を通じた国内公募株式オープン投資信託市場の資金動向を集計しました。上場投資信託(ETF)以外の投信で2年ぶりに設定額を解約・償還額が上回り、リッパーの推計で2.21兆円の純流入でした。

ETFを含めた純流入額は9.18兆円で、統計のある03年以降、5番目の高水準を記録。ですが、ここ数年の投信への資金流入は、大半がETFです=グラフ。

個別の投信では、年間の純流出入額上位は表の通りです。7月設定の「グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)」と、「デジタル・トランスフォーメーション株式ファンド」は、新規募集の7月のみならず12月まで多額の資金流入が続き、年間の純流入額が1位、2位でした。

12月に新規設定された「HSBC グローバル・ターゲット利回り債券ファンド

2020-12(限定追加型)」は、年間の上位には入らなかったものの、950億円を集めて12月単月の純流入額がトップ。これらに見られるように、20年の資金動向の特徴は、新しく設定された投信に資金が集まったことです。

純流出トップの「ひふみプラス」は、流出超過額が2位の投信の2倍で、他を大きく引き離しました。リッパーの投資対象別で日本株に分類される投信は、年間の分類別流

出超過額が9905億円。そのうち、なんと20%が「ひふみプラス」でした。1年間で基準価額が20%も上昇したことから、利益を確保するための解約が多かったと考えられます。

一方で、分類別で資金を集めたのは、グローバル株式で運用する投信、IT(情報テクノロジー)関連投信、米国株投信でした。いずれも、年後半に株価が上昇した場面で継続的に資金を集めました。

■2020年の資金純流出入額ランキング

| 順位 | ファンド名(☆は20年新設) | 資金純流入額(百万円) |
|------------|--|-------------|
| 〈純流入額トップ5〉 | | |
| 1 | ☆グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)(アセットマネジメントOne) | 790.425 |
| 2 | ☆デジタル・トランスフォーメーション株式ファンド(日興) | 381.543 |
| 3 | アライアンス・パースタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし)予想分配金提示型 | 307.105 |
| 4 | 投資のソムリエ(アセットマネジメントOne) | 204.607 |
| 5 | テトラ・エクイティ(三井住友DS) | 186.324 |
| 〈純流出額トップ5〉 | | |
| 1 | ひふみプラス(レオス) | -202.612 |
| 2 | モビリティ・イノベーション・ファンド(BNYメロン) | -102.115 |
| 3 | 野村インド株投資 | -96.978 |
| 4 | グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)(日興) | -89.056 |
| 5 | グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)(日興) | -84.296 |

上場投資信託(ETF)を除く株式オープン投信について設定額から解約・償還額を差し引いた。リッパー推計

近年の資金純流入はETFに頼っている

設定額から解約・償還額を差し引いた資金純流入額。2020年はリッパー推計

